

# 大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

## Outcome report

計画名 Plan	アメリカ宇宙外交と日本—ジョン・グレン訪日を中心に—
氏名 Name	加藤 寿昂
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	人間・環境学研究所 人間・環境学研究所 D1
渡航国 Country	アメリカ合衆国
渡航日程 Travel schedule	2024年 2月28日 ~ 2024年 3月21日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

### 渡航計画の概要 Outline of the travel plan

#### [研究目的・内容]

本研究は、1963年のアメリカ人宇宙飛行士ジョン・グレン訪日が、どのような外交目的のものとして進められたのかを明らかにするものである。従来の日米関係における宇宙開発を扱う研究では、技術協力を核政策の文脈から解釈するものが主流であった。こうした研究潮流は、2000年代以降の文化冷戦、つまり冷戦期に各国が人々の心を勝ち取るために文化的優位性をめぐる競争を展開したことをさす冷戦像の登場をいまだ織り込めていない状況を示している。よって、本研究では60年代のアメリカの象徴の一つである宇宙開発の象徴としての宇宙飛行士の文化冷戦における役割を検討する。

具体的には、1960年代前半においてアメリカ政府が宇宙開発を広報外交として利用する方針はいかなるものであったのか、ジョン・グレン訪日がどのように決定され、成果を残すにいったのかを明らかにすることである。

#### [渡航計画]

本研究は、実証的な歴史研究であるため公文書を中心とした一次史料の収集が重要である。そのため史料収集のためアメリカへと渡航し、ワシントン DC 周辺に3週間弱滞在し米国国立公文書館および米国議会図書館を訪問する。その後、オハイオ州コロンバスにあるオハイオ州立大学文書館でジョン・グレンの個人文書を閲覧する。

### 成果 Outcome

本渡航の結果として、課題に回答するための史料を収集することに成功した。国務省や広報外交を担当していた USIA がどのような方針を策定していたのかを示す文書を収集できた。米国国立公文書館では、関係する文書の特定が難航したものの終盤で1962年から63年ごろに USIA 内部で宇宙開発についてどのように議論されていたのかを示す文書を探し出すことに成功した。ジョン・グレンの個人文書においては、ジョン・F・ケネディ大統領が高く評価していたことを示す文書を収集できた。また、訪問時の写真史料の収集に成功し、当時の訪問がいかなるものであったのかを深く理解することができた。

総じて、本研究を進めるために必要な史料は収集することができたと考える。

## 今後の展望 Prospects for the future

今回の渡航で収集した史料の分析を進め、2024年6月に学会発表する予定である。また、7月には独立論文として投稿する。また、研究の展望としては、従来自らも進めてきた技術協力と広報外交を合わせた一体的な宇宙外交像を提示することを目指す。加えて、60年代後半の対日広報外交において宇宙開発がどのように利用されていたのかについて検討を進めていきたい。